

第6回識字・日本語学習研究集会

よみかきことば・つながるための学習を支援する

若者たちの 識字・基礎教育を 推進する



2020年

1月25日

会場 大阪教育大学天王寺キャンパス西館ホール、その他

対象 識字・日本語教室関係者、夜間中学校関係者、学校
教員、行政担当者、市民団体等

定員 150名 参加費 無料 ★一時保育あり

全体会

パネルディスカッション
「若者たちの識字・基礎教育を推進する」
(9:30 開場・10:00 開始)

分科会

5つの分科会で話し合います
詳細は、裏面をご覧ください
(13:30-16:30)

申込方法

名前、連絡先、参加希望分科会をご記入の上、FAXまたはウェブページ（右バーコードか下記URL）からお申し込みください。一時保育（対象年齢は6ヵ月～就学前児童）を希望される場合は、お子様のお名前・年齢をご記入の上、1/10（金）までにお申し込みください。

【申込ウェブページ】 <https://osaka-kyoiku.ac.jp/center/renkei/centertop.html>

★本件に関するお問合せ先★ 大阪教育大学学術連携課社会連携係

TEL:072-978-3253（平日 8:30～17:15）、FAX:072-978-3554、メール: renkei@bur.osaka-kyoiku.ac.jp



詳細はウェブ
ページをご覧ください↓



主催：大阪教育大学 教職教育研究センター、識字・日本語学習研究集会実行委員会

共催：識字・日本語連絡会、識字・日本語センター／後援：大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・堺市教育委員会

分科会(13:30-16:30)は、5つのテーマにわかれて議論・検討します

A分科会



識字・日本語教育政策下の現場の実態と課題

「教育機会確保法」の施行から3年を迎え、文部科学省は、2018年末よりその施行状況に関する検討を行いました。また「改正出入国管理法」による新たな在留資格「特定技能」の創設に伴い2019年6月には、「日本語教育の推進に関する法律」が施行されるに至っています。この分科会では、このような政策動向をもとに当事者や現場の実態を踏まえ、これからの識字・日本語教育の取り組みに求められるものについて考えます。

B分科会



多様な学習者が共に学ぶ場をめざして

さまざまな教室で、比較的若い学習者が参加するようになるなど多様な学習者が共に学んでいます。その中には、不登校だった人、渡日外国人の子どもや若者で日本での生活が間もない人もいます。一方で、差別や貧困、戦後の混乱の中で若いころに学べなかった多くの人々が、いまなお、学びを求めて「学びの場」に参加しています。多様な学習者たちが同じ教室でお互いに学び合うことの積極的意味や課題を夜間中学や識字学級での経験を交流しながら考えます。

C分科会



識字・日本語学習を必要とする子どもたち

外国にルーツのある子どもが増え、識字・日本語指導が追いついていない現状があります。生活言語に加え、学習言語の習得、母語の維持発展やアイデンティティの確立が重要な課題となっています。この分科会では、子どもを支援する具体的な活動の現状と課題を共有します。大阪教育大学としても子どもたちの日本語学習支援に関わる新しい取り組みをすすめています。今後のあり方を参加者とともに考えていきます。

D分科会



学習者が必要としている学習内容を学習活動として組み立てる

教材づくりとは、学習者が必要としている学習内容を学習活動として組み立てることを指します。ところが大阪府内の識字・日本語教室の調査によると、教室独自の教材を作っている例はかなり少なく市販の教材が多くの教室で使われています。この分科会では、実際に教材づくりを行っている教室の取り組みを紹介してもらい、学習者が主役となるような教材を教室としてつくれるようになることをめざします。

E分科会



学習者をはじめみんなが運営に関わる教室をつくる

大阪の識字・日本語教室では、1980年代から学習者を含めた運営委員会が設けられ、さまざまな課題を解決しようとしていました。ところが最近では、教室に方向性やまとまりがなくなったり特定の人に頼ったりしていると言われます。とりわけ、学習者の運営への関わりが薄くなっています。教室参加者みんなが力を合わせて教室の運営に携わっていくにはどうすればよいか、現場の声を受けとめながら議論していきます。

会場アクセス

大阪教育大学
天王寺キャンパス



〒549-0054

大阪市天王寺区南河堀町4-88

*JR・地下鉄「天王寺」駅、

近鉄「大阪阿部野橋」駅より700m

*「寺田町」駅より300m

